

平成22年度 酪農教育ファーム認証牧場及びファシリテーターに対する

活動実態調査結果（報告）

平成23年10月31日
社団法人 中央酪農会議
酪農教育ファーム推進委員会

1. はじめに

平成22年度は、4月20日に宮崎県で口蹄疫が発生してから8月27日の「終息宣言」がなされるまで、全国的に酪農体験は自粛された。また、9月以降においても、韓国をはじめ近隣国での口蹄疫の発生が続き、活動実態からは口蹄疫感染のリスクを不安視する影響が色濃くみられる。

よって、22年度の酪農教育ファーム活動はこれまでの傾向通りではなく、特に牧場受入に関しては著しく減少する結果となった。以下に、項目ごとに結果を示す。

2. 受入団体及び受入者数

22年度は、前年度から18の認証牧場が増え、認証牧場数は309牧場となった。

また、22年度の認証牧場（調査回収件数/上半期248牧場・下半期267牧場）における受入者数（実際に体験を受けた来場者）は約41万2千人となり、21年度と比較して受入者数で約53%減少する結果となった。

そのうち、22年度に受入なしの認証牧場数は87牧場となっており、21年度実績（22牧場）と比較して大幅に増加している。新規認証牧場については、次年度以降から受入を開始する場合も多いが、22年度の新規認証牧場数は18牧場であり、受入実績がない牧場の調査票からは「口蹄疫が心配で、22年度は受け入れ体験を全て休止」というコメントが複数みられたことから、受入実績がない理由としては、口蹄疫の発生によるところが大きいとみられる。

なお、22年度においても21年度同様に、1団体あたりの受入人数実績（d）が少なくなっており、家族連れ等を主なターゲットとした観光型の牧場などに訪れて酪農体験を実施した少人数のグループが増加する傾向は続いていることが推察される。

【表 1】

項目	20 年度	21 年度	22 年度
認証牧場数	257 牧場	291 牧場	309 牧場
回答牧場数...a	257 牧場	272 牧場	294 牧場
回答率	100.0%	93.5%	95.2%
受入団体数...b (家族連れ等の小グループを含む)	28,705 団体	127,513 団体	49,830 団体
受入人数...c	705,568 人	879,229 人	411,843 人
1 団体当たり受入人数...d	c/b 25 人	7 人	8 人
牧場当たり平均受入団体数...e	b/a 112 団体	469 団体	169 団体
牧場当たり平均受入人数...f	c/a 2,745 人	3,232 人	1,401 人
受入なしの認証牧場数	69 牧場	22 牧場	87 牧場

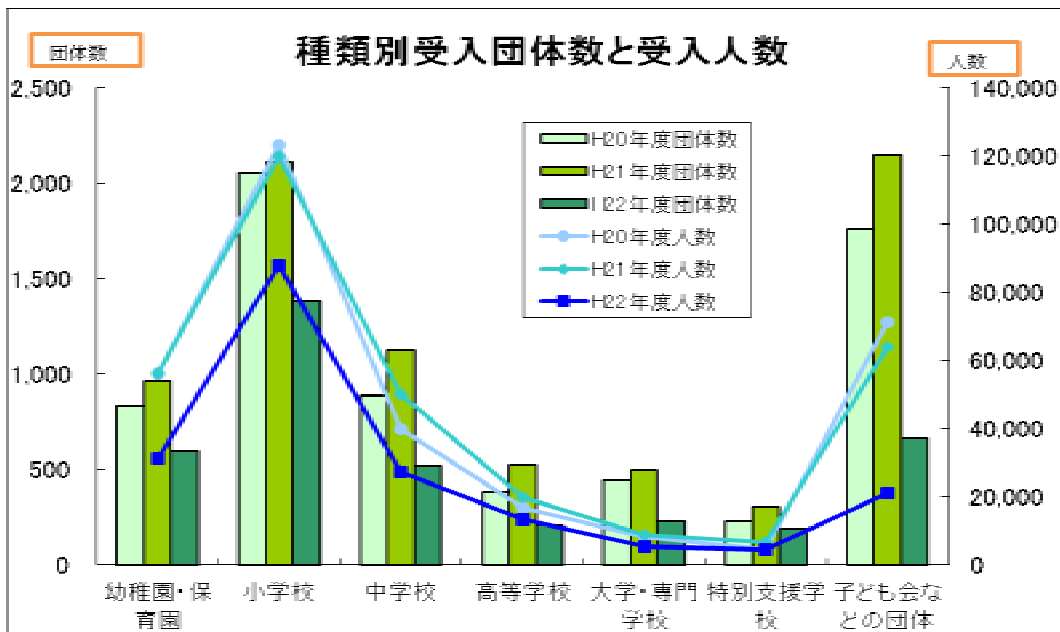
3. 団体種類別の受入状況

団体種類別にみると、総受入団体数、人数ともに大きく減少したことが影響し、表 2 の全ての区分において、団体数も人数も 21 年度を大きく下回っている。

【表 2】

区分	種類別団体数			種類別受入人数		
	20 年度	21 年度	22 年度	20 年度	21 年度	22 年度
幼稚園・保育園	836	968	599	56,161	56,137	31,225
小学校	2,054	2,116	1,385	123,373	120,051	87,882
中学校	888	1,126	519	39,875	50,112	27,425
高等学校	386	527	207	17,002	19,818	13,430
大学・専門学校	443	499	229	8,404	8,986	5,427
特別支援学校	231	308	194	4,627	6,656	4,620
子ども会等の団体	1,762	2,146	663	71,182	63,812	21,327
小 計	6,600	7,690	3,796	320,624	325,572	191,336
家族連れ等の個人	22,105	116,070	45,964	384,944	548,048	210,776
その他(イベント等)		3,753	70	-	5,609	9,731
合 計	28,705	127,513	49,830	705,568	879,229	411,843

【グラフ1】



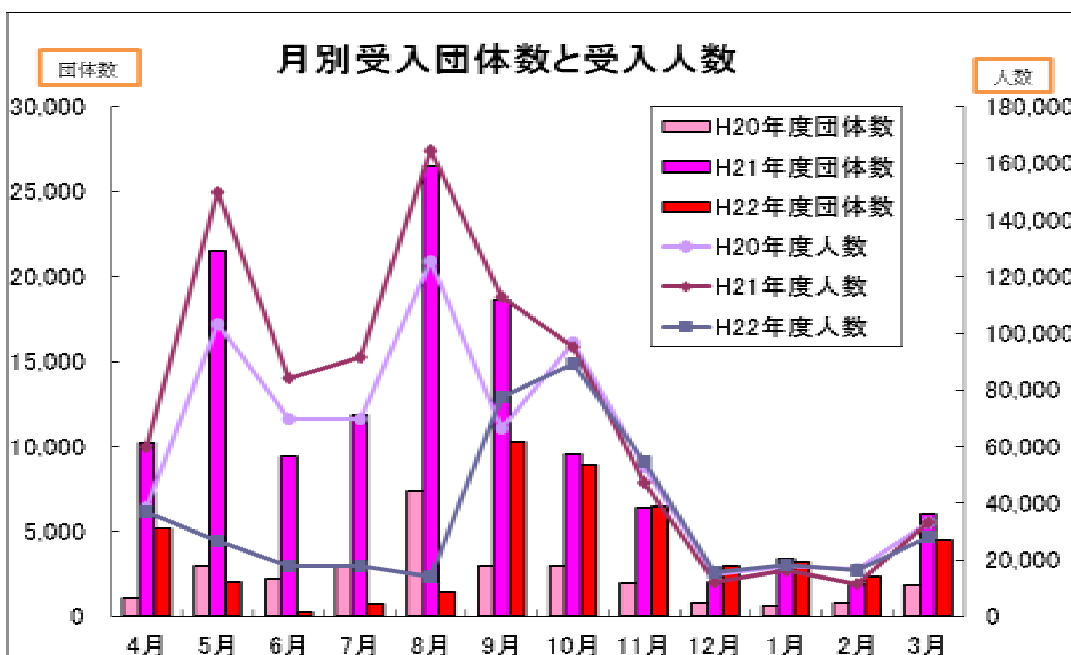
4. 月別の受入状況

月別では、21年度までは団体数・人数とも春から秋までの上半期が多く、冬季は全体的に団体数・人数とも少ない傾向が続いたが、22年度については口蹄疫発生による影響が大きく、5月～9月については大きく21年度の実績を下回っている。

11月～2月については、わずかに21年度の実績を上回っている。これは、口蹄疫終息宣言後、体験受入を再開した牧場があったことと、21年度の実績が少ないことが考えられる。21年度の下半期（特に秋季）は、新型インフルエンザの発生により、教育機関などの予定していた体験が相当数中止や延期になったというような大きな影響があった。さらに冬季には、特に東北地域で例年に比べて積雪が多く、開放が難しかったという牧場があった。

【グラフ2】

家族連れ等の個人グループを含む



5. 地域別の受入状況

22年度の受入実績を地域別にみると、一部の地域を除いて、受入団体数・人数ともに大きく前年を下回っている。特に、これまで受入数が多かった認証牧場(主に観光型の認証牧場)が、体験活動を自粛した影響が大きいとみられる。

逆に、近畿・四国については、受入団体数が大きく増えており、四国は受入人数も増えている。これは、22年度下期に大きく体験者数が伸びた牧場があったことが大きな要因と考えられるが、同地域においても一部を除くほとんどの牧場の実績が減少している。

【表3】

地域	認証牧場数 (前年増加数)	受入団体数(前年比・%)	受入人数(前年比・%)
北海道	53 (2)	8,834 (24.0)	45,609 (22.0)
東北	43 (1)	578 (49.3)	17,482 (67.2)
関東	65 (5)	25,318 (34.1)	163,213 (40.2)
北陸	17 (1)	313 (45.1)	3,903 (43.0)
東海	49 (0)	4,769 (86.6)	104,814 (85.2)
近畿	15 (2)	4,964 (130.8)	21,487 (84.5)
中国	18 (1)	510 (29.9)	12,118 (52.0)
四国	8 (1)	3,806 (256.5)	18,554 (114.4)
九州	38 (5)	687 (34.2)	23,556 (61.4)
沖縄	3 (0)	51 (39.2)	1,107 (31.2)
全国	309 (18)	49,830 (39.1)	411,843 (46.8)

6. 出前教室型活動の取組状況

22年度は牧場での体験活動が減少した一方で、出前教室型の体験は大きく増加した。

出前教室を実施している認証牧場は93牧場であり、全体の30%となっている。1回あたりの平均受講人数は50人で、21年度と比較して、特に小学校・中学校、子供会等への小規模な出前活動が増えている。

実施方法としては継続型より1回のみの実施が多かったが、1回のみ出前教室は前年3.3倍であるのに対して、継続型の出前教室は前年4.5倍以上と、その増加幅が大きい。

月別に見ると、4月～11月、特に5月の実績の伸びが顕著である。22年度は上期、特に5月は予定していた牧場での体験を急遽出前教室型に変更したという報告が多数あったため、その影響が大きいと推察される。

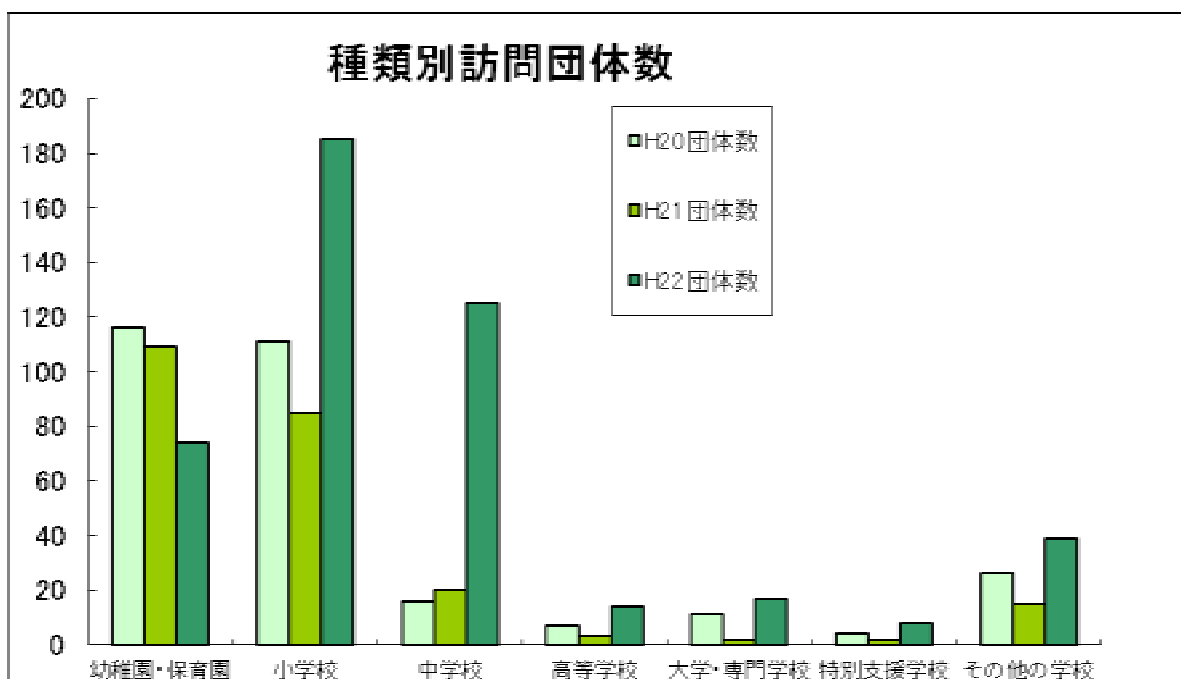
【表4】

項目	20年度	21年度	22年度	
回答牧場（ファシリテーター）数	175 牧場	210 牧場	232 牧場	
回答率（認証牧場数）	68.1% （257 牧場）	72.2% （291 牧場）	75.1% （309 牧場）	
出前教室実施認証牧場 （ファシリテーター）数	47 牧場	77 牧場	93 牧場	
1回のみのお出前教室...a	603 件	278 件	914 件	
継続型のお出前教室...b	41 件	51 件	232 件	
全体...c	a+b	644 件	329 件	1,146 件
1回あたり平均受講人数	200 人	334 人	50 人	

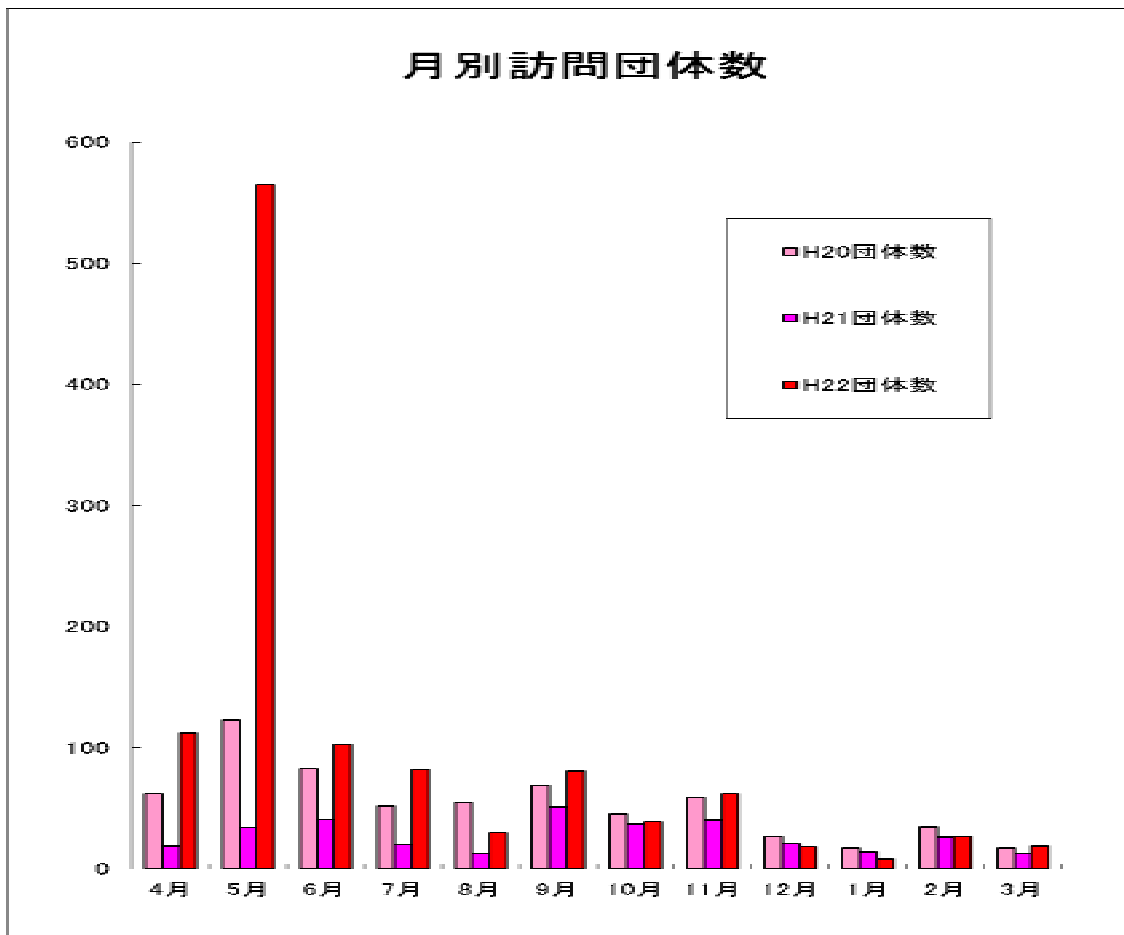
【表5】

区分	種別別団体数		
	20年度	21年度	22年度
幼稚園・保育園	116	109	74
小学校	111	85	185
中学校	16	20	125
高等学校	7	3	14
大学・専門学校	11	2	17
特別支援学校	4	2	8
その他の学校	26	15	39
小計	291	236	462
子ども会・イベント等	353	93	684
合計	644	329	1,146

【グラフ3】



【グラフ4】



7. おわりに

22年度は年度当初に発生した口蹄疫により、酪農教育ファーム活動は年間を通じて全国的に大きな影響を受けたことが本結果から読み取れる。

さらに、3月11日には東日本大震災が発生し、東北・関東地域を中心に酪農教育ファーム活動のみならず酪農経営も大きな影響を受けた。23年4月以降の活動実績の調査はこれからであるが、地震に加え原子力発電所の事故の影響が今なお大きいことが予想される。調査票からは、牧場を訪れた消費者から「牛乳に対する放射能の不安」の声をよく耳にする、という意見が複数みられた。

以上